



# 朝一小だより

活気と潤いがあり、みんなが「育つ」学校

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校  
 令和3年4月8日  
 児童数 591名  
 校長 野口 邦彦

TEL048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

## 答えは「スタート」ではなく、「ゴール」にある

校長 野口 邦彦

3月、4月は別れと出会いの季節です。

3月24日(木)卒業式、94名の卒業生が小学校6年間の過程を終了し、朝霞第一小学校を巣立っていきました。ほとんどの卒業生の目には涙がありました。その涙の意味は、「(小学校生活を)やりきったという成就感、達成感」であり、「もう二度と戻れない小学校生活への寂しさ」でもあるのだと思います。この卒業生も、小学校6年間の中では、様々な別れや出会いをくり返し、うれしかったこと、悲しかったこと、失敗してしまったこと、成功したことなど、それぞれに様々なドラマがあったことと思います。しかし、卒業式という小学校のゴールを迎えた時、それぞれの中に何か去来したものがあり、それが涙と言う「答え」になって表れたのだと思います。



そして4月、新入生にとっては小学校のスタートであり、在校生にとっては新たな学年のスタートです。小学校には様々な節目があります。その中でも特に大切なのが、この入学、進級という節目です。この節目を大切にしていくことが、自分の「育つ」にもつながっていきます。教室も変わり、クラスの担任も仲間も変わります。(変わらない人もいるかもしれませんが)今までと違う環境になるわけですから、初めは戸惑いや不安があるのも仕方のないこと。でも、人は過去に生きるのではなく、これから始まる未来に生きていきます。新しい学年のスタート、

「今年はこんなことをしたい」「こんな自分になりたい」といった決意を新たに、まずはその一步を踏み出して行ってほしいと思います。新しい学年・学級においては、スタートは少し違和感もあるかもしれませんが、でも、先程話しました「卒業生の涙」を見る時、答えは「スタート」ではなく、「ゴール」にあると思います。これから始まる1年間、どんな未来が自分を待っているのか(何か歌の歌詞のようですが)それを楽しみにして、そしてやり終えた1年後、どんな気持ちが自分に訪れるのか、答えはそこにあるのだと思います。

### 月の形

太陽は月を照らす

照らされた部分だけ私達には見える

だから丸くなったり

欠けたりして見える

それは、人を見る目と同じだ

昨日は少しいやな人に見えたけど

今日はとってもいい人に見える

月だつて、少し欠けたり丸くなったりする

照らされた部分はきれいでも

照らされない部分は暗い

いい性格の人だつて

どこかに照らされていない部分がある

満月だつて何日も続かない

人の心だつていつもいいとは限らない

人も月も完璧ではないのだ

でも、

だから月も人もおもしろい

今年の「学校だより」には、私の人生の中で、出会って、気に入った詩を、いくつか載せていければと思います。

あくまで、その年代その時々で、直感的に私自身が気に入った詩ですので、作者がわからなかったものもいくつかありますが、ご容赦ください。

皆様のお気に召すかはわかりませんが、何か参考になるものがあれば幸いです。